

第14回宇宙政策委員会 議事録

1. 日時：平成25年4月24日（水） 16：00－17：30

2. 場所：官邸2階小ホール

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、青木委員、中須賀委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

安倍内閣総理大臣、山本内閣府特命担当大臣（宇宙政策）、島尻内閣府政務官、西本宇宙戦略室長、明野宇宙戦略室審議官

4. 議事録

安倍総理から、以下のような挨拶があった。

- ・私は、本年を「宇宙利用」元年としたい。
- ・今後の宇宙政策の要諦は、産業振興及び日米協力・安全保障である。このためには、「従来の研究開発重視から、出口を見据えた利用拡大重視への転換」、「自前で宇宙活動できる能力の保持」を行わなければならない。
- ・その際、「限られた資源の重点配分と民間資金の導入」、「民間需要や海外需要の取り込み」が必要である。
- ・このため、宇宙政策委員会には、この考え方に沿って、重点的な配分方針を定め、担当府省を明確にするとともに、しっかりとした事業の優先順位付けを行って頂きたい。また、このフォローアップもお願いしたい。
- ・併せて、司令塔である内閣府を中心とした宇宙政策の推進体制の一層の強化が必要である。
- ・山本大臣には、各府省がこの予算配分方針に基づいて予算要求を行うよう、関係大臣としっかりと調整して頂きたい。

山本大臣から、以下のような挨拶があった。

- ・本年1月25日に、まさにこの官邸2階小ホールで、第7回宇宙開発戦略本部を開催し、新たな宇宙基本計画を決定した。
- ・その際、安倍総理から、宇宙政策を経済成長と産業の活性化の観点から、関係府省が連携して強力的に推進すべしとの指示を頂いた。
- ・こうした総理からの指示を踏まえ、先日開催された第6回産業競争力会議にて、私から、宇宙インフラ整備による経済成長と安全保障・防災の強化と題して、準天頂衛星システム、ASEAN防災ネットワークの構築及び宇宙状況監視について、プレゼンを行った。
- ・こうした宇宙インフラを、我が国の経済成長の一つの柱として位置づけるとともに、日米関係の強化を含む安全保障と防災能力の強化を図っていくことが重要と考えている。
- ・前回の戦略的予算配分方針はかなりの成果を上げた。今年は、さらにこれを深化させて頂きたい。

- (1) 平成26年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針について
事務局から資料1-1~3に基づいて説明を行ったところ、本議題に対して、委員から以下のような意見等があった。
(以下、○委員発言、●事務局発言)

(準天頂衛星システムについて)

- 準天頂衛星システムは、地上のアプリケーションを育成することが最も重要であり、これからが大切な時期である。また、今後の衛星打ち上げ予算の確保も、今後重要になってくる。(山川委員)
- ASEANの国々から見たときに、我が国の準天頂衛星システムが魅力あるシステムとなるよう、アプリケーション開発をしっかりとっていくことが重要と認識。衛星打ち上げロケットの予算の確保もしっかりやっていきたい。(西本室長)
- 準天頂衛星の補完機能を、GPSだけに限らず、海外展開を考慮し他の測位衛星にも対応させることの妥当性を検討してはどうか。(山崎委員)

(ASEAN防災ネットワークについて)

- ASEAN防災ネットワークは、産業化、海洋監視等での日米協力等の意義があり、重要な取組である。官民が適切に分担して多機数を打ち上げて撮像頻度を向上させることが利用者にとって非常に大切。政府として早急に多数機を打ち上げる方針を打ち出すべき。(中須賀委員)
- リモートセンシングに関して、例えば政府がインフラの整備、民間がデータの販売などの役割分担をすることによって、民間で得た収益を、政府のインフラ開発費に還元できるような、資金の流れの仕組みを作っていくことが重要。また、ビジネス展開の際は、衛星データの質と継続性が非常に重要。(中須賀委員)
- 厳しい財政状況を踏まえ、国際宇宙ステーションの小型衛星放出機構や、「きぼう」船外センサなど、現在あるリソースを、ASEAN防災ネットワークを構築していく際にも活用していくことが必要ではないか。(山崎委員)
- 国際宇宙ステーションからの小型衛星の放出は、非常にチャレンジングな取り組みであると考えているが、現状は10センチ角の超小型衛星を放出することしかできないため、どの程度実用に耐えるものなのかは、検討していく必要がある。(西本室長)

(宇宙状況監視(SSA)について)

- SSAは、米国関係者の中で現在大きな関心事となっている。日本もこの分野での協力を早急に着手するべき。また、関係省庁間の横の連携が不可欠である。(山川委員)

●アジア太平洋地域においては、スペースデブリの観測インフラが不十分であるため、我が国として、米国が行っているデブリ監視網の一翼を担っていくことが大事であると考えている。(西本室長)

○SSAや海洋監視について、欧米では民間企業が参画しており、宇宙物体がどこにあるのかという情報を活用した産業は日本でもこれから開拓していかなければならない。そのためにも、産業界に対して、この分野がいまどのような状況にあるのかということ、迅速に情報提供していくということが重要ではないか。また、欧米企業連合の活動に我が国の企業もメンバーとして参画していくことも視野に入れるべきではないか。(青木委員)

●宇宙利用産業を広げていく必要があり、SSAに関するサービス産業というのは面白い視点。我が国の企業がそういったところにどのようにかかわっていくかなど、十分研究していく必要がある。(西本室長)

(宇宙輸送システムについて)

○自律性の確保に関し、次期基幹ロケットについて、コストの妥当性、財政負担軽減の確実性、海外への展開の可能性、さらには、安全保障上のニーズ等を踏まえて、宇宙輸送システム部会で検討している。(山川委員)

(その他)

○SSA、ASEAN防災ネットワークに関して、主管省庁をはっきりさせることが、対外的にも重要になってくる。(中須賀委員、山川委員)

○準天頂衛星システム、ASEAN防災ネットワークともに、利用を含めた研究や海外留学生を受け入れるための拠点を国内に整備していく必要がある。ここで育成された留学生が自国に戻った時に、日本のシステムのユーザになることが見込まれるため、利用拡大の一環としても検討すべき。(中須賀委員)

●日本の宇宙システムのファンを増やしていくということも重要であるので、宇宙システムの海外展開の際に、研究あるいは教育を行う体制も含めた提案が重要になってくる。(西本室長)

資料1-3については、本日の資料1-1の視点を踏まえて、重点化の方針と重点事業を盛り込むことについて、委員会として了承された。

(2) 宇宙輸送システム部会、宇宙産業部会、宇宙科学・探査部会の状況(報告)

①宇宙輸送システム部会の状況について、資料2-1に基づいて山川部会長より、報告を行った。報告の後、以下のやり取りがあった。

(以下、○質問、●回答)

○ロケットの技術力を我が国として維持していくために、今あるロケットを作って売るだけではだめで、新しい技術開発をしていかなければならないという議論はあったか。(中須賀委員)

●現状の技術基盤を維持していくという意味で、従来あるものを作っていただくだけでは技術が継承されないだけでなく、起こった事象への対処能力が失われていくといった議論があった。また、輸送関係の中小企業の撤退等の問題、部品枯渇の問題も取り上げられた。(山川委員)

○宇宙輸送能力を持つということは一つの国策であり、我が国が一定のプレゼンスを示すうえで重要。宇宙を安全保障という観点から見ると、米国と日本の中で一定の役割を確保しておくことは、我が国の安全のために不可欠であると考えます。(葛西委員長)

●我が国の安全保障上、宇宙輸送能力の保持は絶対的に必要なものと認識している。(山川委員)

○安全保障にかかわる部署と宇宙政策委員会が議論する機会を作って、安全保障政策上にも重要であるという視点があれば、そこからの予算の導入も含めて、ロケットの開発を行っていくということになればいいと考えている。(中須賀委員)

○宇宙輸送に関しては、人を運ぶという観点も考慮する必要がある。宇宙先進国としての我が国の立場を今後維持発展させていくという目標がある限りにおいては、有人についても議論すべき。(山崎委員)

②続いて、宇宙産業部会の状況について資料2-2、2-3に基づいて中須賀部会長代理より、報告を行った。報告の後、以下のやり取りがあった。

○リモートセンシングの産業化の視点として、国内の衛星を増やすのではなく、購入したデータなどから、新しい価値を生むという方向性は議論されたか。(青木委員)

●海外衛星のデータ等をいかに活用していくということについては、極めて重要な視点である。(中須賀委員)

③宇宙科学・探査部会の状況について資料2-4に基づいて山川委員より、それぞれ報告を行った。報告の後、以下のやり取りがあった。

○今までの議論全体に関わる話であるが、ロケット産業としての競争力

について議論はあったか。(山本大臣)

- 宇宙輸送システム部会での議論になるが、各国とも、基本的には政府がロケットの開発を担当するが、厳しい財政事情であるため、民間活力を利用していく必要がある。また、海外市場を獲得していくためにも、打ち上げコストを低減していく必要があり、この低減の結果として、政府が衛星を打ち上げる際の負担が軽減されるといった両方の観点から、基幹ロケットの開発を進めていく必要があるとの議論があった。(山川委員)

以 上